

竹藪がアートを生み、アートが人と人の繋がりを生む。バンブープロジェクト in Fukuichi

近年増加する放置竹林。最近では厄介者扱いされることも少なくない竹を使って椅子やテーブル、アート作品をつくり、その作品で創った幻想的な空間で地域のひととの交流や音楽を楽しむイベント「バンブープロジェクト」が市場で開催されました。



①材料の竹を切った切り口に証明を設置。「自然から人工への移り変わり」を表現しているという。②滞在中五十川マチ子さん③から貰った星のワッペンをずっと身につけていたシュウさん④。③材料の竹。材料調達と竹林の管理を両立。④鹿威しの動きをチェック。



近年増加する管理者不在の「放置竹林」。土砂災害の原因にも。

「雨後の筍」という言葉があるように、すぐに育つ竹ですが、その旺盛な生命力のため、竹林は1年でも手入れをサボると見るも無惨な姿に。根を浅く張る孟宗竹の性質上、管理されていない竹林は土砂災害の原因にもなります。このような「放置竹林」は、土地の所有者がわからない「所有者不明土地」問題とも相まって近年増加しています。面積の多くを山林が占める福智町も例外ではありません。

「厄介者」が作品の「材料」に。竹林の管理と材料調達を両立。

そんな厄介者扱いされることも少ない孟宗竹を使って、椅子やテーブル、鹿威しなどを作り、それらで創った幻想的な空間で音楽や交流を楽しむイベント「バンブープロジェクト」が、9月に「7世代キャンプ場」(市場)で開催されました。イベントには地元住民をはじめ約30名が参加し、幻想的な空間での演奏と交流を楽しみました。作品は、武蔵野美術大学(東京)に在学中でこのイベントの趣旨に賛同する中国人留学生



イベントは「7世代キャンプ場」で開催。老若男女が憩いのひとときを共にしました。

が、草場公民館に1週間住み込みで作成。作品の材料の調達のための伐採がそのまま竹林の管理にもなりました。福智町でも進む「地域のつながり」の希薄化。その力を再発見。

留学生が公民館に滞在中、近所の皆さんが食材を持ちより夏野菜カレーを振る舞ってくれるなど、毎日のように差し入れを持ってきてくれたそうです。留学生は皆、「東京は隣に誰が住んでいるかも分からないけど、こちらは人と人の距離が近くてあたたい口を揃えます。ここは田舎だけど東京より落ち着く。私たちは皆田舎ものだから」と冗談交じりに言うのはグループリーダーの周少帆さん。近所の五十川マチ子さん(市場)が作ってくれた星形のワッペンを気に入って、滞在中ずっと身につけていたそうです。大学では地域コミュニティの再構築をテーマに研究するシュウさんは「本場の勉強は学校ではなくこのように社会ですもの」と断言します。イベントにも参加した前述の五十川マチ子さん(市場)は「留学生は皆優しいけど、最近は組に入らない人も増えてきて、コロナもあって近所の集まりがなかったけど、久しぶりに皆で集まって楽しかった」と目を細めていました。

バンブープロジェクトの「仕掛け人」ひだかまさひろ 日高将博さん
 ●福智町市場在住。地域おこし協力隊として活動中。「竹林から生まれた作品で人と人を繋げる」をコンセプトに今回のプロジェクトを企画。「自宅裏山の竹林を伐採中、廃棄する大量の竹を有効活用できないかと思ったことが原点です。放置竹林と地域コミュニティの縮小に悩む地方の持続可能な未来のヒントになったら」と言います。

頼れるリーダー シュウ ショウホ 周 少帆さん

威海市出身。古民家再生による地域活性化をテーマに、音研究している。デザインを通じて地域課題を解決したい。

音楽で人と人を繋ぐ テイ キョウウ 程 晓宇さん

内モンゴル出身。地域コミュニティの再構築をテーマに、音楽の人と人を繋ぐ力による地域活性化の研究を行っている。

音楽とダンスが大好き マウ ミンシ 張 函宸さん

湖州出身。音楽とダンスに影響を受け、リズム、身体、空間の関係性を研究中。面白い物を作って全世界を楽しませたい。

福智町での出会いが楽しみ シュウ タクヰン 朱 澤一さん

胡蘆島出身。バイオニクス表皮によるプロダクトデザインの研究と実践を行っている。大地の芸術とバイオアートが好き。

工学とデザインを繋げる マロ ショウトウ 王 小彤さん

鄭州市出身。機械工学専攻。デザイン工学に興味があり、ゲーム(プレイと制作両方)と哲学、装置制作が趣味。

武蔵野美術大学の中国人留学生が竹藪から生み出してくれた幻想的な空間で、留学生と地域の人が楽しいひとときを過ごしました。